

会 議 録

件 名	学文路地区 地域説明会・意見交換会
日 時	令和6年7月24日（水）午後7時00分から午後9時10分
場 所	学文路公民館
参加者	学文路地区 23名 今田教育長、岡教育部長、阪口参事、丸山教育総務課長、大谷学校教育課長 長谷川生涯学習課長、東学校再編推進係長、東川、中山

今田教育長挨拶、東学校再編推進係長から資料説明の後、質疑応答、意見交換になりました。なお、お帰りの際に、発言できなかったことについての意見等をご記入いただきました。

本説明で出された意見等は、以下のとおりです。

1-1. 説明を聞いて、今後、清水小学校と学文路小学校、及び橋本小学校との兼ね合いというのは、大体話としてはよくわかるんですけど、現実問題として、学文路小学校と清水小学校を合併して、それで清水小学校を廃校して学文路小学校へ行くとなったら、実際問題、児童生徒が通学距離の中で、いろんな事故とか事件とかそういった心配というのは多分にあると思うのです。この話を、学校教育がすることと、学校の中がすること、それから教育委員会が教育行政としてやることをきちっと区分けして、もう一度検討して欲しいと思う。学校教育というのは、これは時代が変わったとしても、昔も今もこれから先も、言葉の表現が変わっても、学校がするこの3つの柱は、基本的に変わらない、永久に変わらない。それを支えるのが教育行政であって、まずこういった初等教育にあたっては、安全だ、親が安心してくれる、ここに向かって、学校でいい教育しても、いろんなタブレットが入りパソコンが入って、ICTになって、そういった教育の内容がどんどん時代とともに進化することがあっても、安全安心が脅かされたら保護者としては、たまったもんじゃないと思う。

今、私も仕事もしないで家におる身なんだけども、たまに畑に出ると2時半頃になったら放送があります。放送を聞いたら、小学校の子がぼちぼち帰ってくるんやなとわかる。朝やったら、子供たちがたくさん学校へ登校しますよね。そのときだったらたくさん車がいっぱい走っています。一番心配することは、事故とか事件とかっていうことで、もし清水小学校がなくなって、清水小学校の子供が学文路小学校へ行かないといけないことになった場合、清水の駅から学文路の駅前は、大体歩いて35分から40分大人でかかるんです。ただ学文路小学校の位置と清水小学校の位置、清水駅と学文路駅と考えれば、清水駅から学文路駅までは信号は3つです。車で走ったら、法定速度内で走っても4、5分あったら清水駅から学文路駅まで行きます。歩いたら35分から40分からです。その状況はどうかと

いうと、両側に歩道があるが、車道大方2メートル程の幅があるところもあれば1メートル弱のところもある道を、今度はもし歩くという前提で話をしたら、ガードレールがあるのは、南馬場の最後の信号のところから学文路小学校の間はガードレールがあります。そこから、天神さんの神社のところからずっとほとんどガードレールありません。車道と歩道が別になっているところ、縁石の部分は2~30cmのところもあれば10cmのしかないところ、果たして子供らが歩いて通学するとなった場合に非常に危険が伴う。朝は、新しい道ができたおかげで車の通行量もかなり増えとる。僕はずっと清水で住んで、あの新道ができていないときだったら、昔のこの公民館の前からずっと橋本橋のところまでは、旧道があったからそこ通っていたらいい、ほとんど車も飛ばせへんし事故なんてまずなかった。新しいこの新道ができてから、もうすでに事故、死亡事故が起こっている。縁石がそんな状態で、ガードレールもあやふやな状態で、朝は子供の通学時間にかんりの車が走ります。だからまず事故の心配、帰り2時半、3時頃になって子供たちが帰ってくるようになったら、今度はほとんど車が走っていません。走る量は24号線と比べてやっぱり少ない。多いのは朝と夕方が多い。子供らが帰る時分になったら、1人や2人で帰って、通学路歩いて帰っていたら、今度は事件の心配。こんな状態で親にしてみたら、親が仕事に行くよりも子供が先に家を出らんなん。帰りはまだ親が仕事をしとるときに、子供が3時頃になったら下校する。2時半の放送が入って、もしその放送が聞こえるように親が働いとったら、ほんまに無事に帰るやろかとそんな心配だよ。だから、小学校1年でその心配が終わる人もおれば、これから6年間ずっと小学校1年から6年間ずっと卒業するまで学文路小学校に通っていかんなんてなったら、そんな地震が起こって学校が潰れるとか、いや壊れるとかそんな以前の問題で、安全安心がもう完全に脅かされた状態です。だから、その学校へ行って、いろんな様々な教育を受けて、学んでとそういう、友達同士が仲良くして給食食べて、そんな次元の問題と違って、もう毎日が心配せんなんよなことばかりなんよ。年間授業日数200日かな、その間毎日毎日、子供が学校に無事に着いたんか、夕方3時ごろ帰って来たかとそういう心配がずっとつきまとうんです。だから、もしこの話が進んでいくんやったら、子供の安全安心をもっと地域や保護者に、こんな状態ですから安心して下さいということ伝えてくれたら、それは、学校、文科省が言うその適正範囲とか適正規模とかというのはわかるけども、今の状態で、清水小学校なくして学文路小学校へ通わすというのは非常に問題がある。だから、道路整備などをきちっとやって、そして、ある部分はもうきちっと整理され、それができないんだったら、すべての子供を送り届ける安全安心を、もっときちっとしてからでないと、この話はあかんぞと思うんですけどね。そういう話は、教育委員会とかこの案を考えたときに話が出なかったんですか。

(教育委員会)

ご意見ありがとうございます。いただいたお話の中で、安全ということに関しましては、教育委員会の中でも議論いたしました。その中で、24ページにもちょっと書かせてもらっているんですけども、今回、再編統合を行う対象校におきまして、通学距離を小学校の場

合、通常3キロから2キロに短縮して1つの安全対策としまして、縁石、歩道がないという部分も正直なところもありますし、交通量も多い所もありますので、1つの案としてスクールバスを運行させていただきたいと考えています。

当然距離というのもあるんですけど、やはり報道でも、最近、他府県で小学生が巻き込まれるというようなネットに出ていますし、ああいうのを見てしまいますと、どうしても場所どこかな、何歳の子が犠牲になったのかと考えますと、うちの市では起こしたくないので、ガードレールがない、例えば、幅が狭いということでありましたら安全対策の1つとして、スクールバスの運行も並行して教育委員会として進めていくという議論はいたしました。2時半の放送も今度、屋外子局から戸別受信機というのに変わっていくんですが、できれば、これはもうお願いになるんですけど、引き続き地元の方には、子供たちの登下校時に、見守りのご協力をいただけたら非常にありがたい次第でございます。

1-2. スクールバスで送り迎えするという、私は別にそれやったら安全と思うんですけどね、歩く子にとったら、ある一定の距離を超えたらもうスクールバスに乗れないでしょう、それはどうですか。

(教育委員会)

基本としましては2キロ程度と書かせてもらっているんですけど、今、確実にという言い方じゃないんですが、できるだけ柔軟に考えさせていただきたいなというのはございます。

1-3. 清水小学校、今50数名と聞いているんですけども、そのうちの何名かが歩くということもあるのと違いますか。

(教育委員会)

スクールバスの乗車につきましては、その保護者さんのご意向も踏まえて、させていただくことになるんですけど、例えば中道であったり、距離であったりというところで、ご希望といいますか、バスに乗りたいという条件のもとで、お子さんはすべて乗っていただくことを考えています。

1-4. ほとんどの子供がバスに乗せてもらえるのであればいいですけど、もし歩くとなったら、距離的に2キロ以内という結構あるし、もし天候の悪い雨のときとか、あるいは冬の凍てつくような時期とか、あるいは夏の暑いときとか、30分40分もひょっとしたら歩かんなんと思うんですけども、長い時間を小学校の1年生、2年生の方がランドセル背負って通学せんなん。あやふやになった時点で、きちっと場所全部言うてよ、これがある程度、子供の数がどんどん減って、もうバスも埋まって動かんようになって、最終的に何人か学文路小まで歩くことになるのもどうか。年間200日、台風の時もある、大雨のときも、そういった気象条件が様々な条件のなか、子供たちが通学するとなったら、ほんまに大変な問題やで、大人でも。これ毎日通学でずっとになるからね。こんなんはこの場でやめて、も

っと他の方法はないのかな。例えば、学校廃校にするんじゃなくて分校にするとか、複式学級にするとか、これ方法というか手段がいくらでもできるだろうと。その文科省の言う適正規模だけにこだわる必要はないと思う。どうしてこう統合にこだわっていくのかな。青写真だけ聞いとったらね、確かにこれは学級数、規模がなんぼかって、お互いに切磋琢磨する環境を整えてあげたほうが、それはある意味いいか知らんけども、これは地域的困難、地域の状況であれば、教育というのは別個なもんですよね、考えて欲しいという願い。様々な文化施設、学校というのは最後の文化施設の砦や、まして小学校無くすという、最後の文化施設の最後の最後の文化施設をなくす、大きな問題を含んでいる。もし若い人がいたら、あそこに行っても小学校あらへん、そしたら地域崩壊に繋がってくる。だから、学校をなくすというのでなく学校を存続させて、そして、少なくとも小学生、中学生なら自転車に乗ることは可能ですから、小学校は存続を前提にしてほしいなという考え、これは私の願いです。

(教育委員会)

ご意見ありがとうございます。説明の中でもあったのですが、この10年間で市立小学校に通う児童が約21%減少しているということがあって、この急降下というのは、今後もしかしてもっと加速するかもしれません。去年、令和5年度に生まれたお子さんというのが300人割ったんです、200の後半になって。その中で、市内14校でもっと加速的に減ったら今の教育環境がもっと小規模になります。ただ、小規模を否定するのではなくて、小規模校には小規模校のいいものがあるんです。それはなぜかというと、学校の先生の努力と地域の方のコミュニティのご協力があるから出来ているからなんですけれど、これが加速化して、教育委員会が一定の方針を出さなかったら、本当に子供の数が少なくなってから動いても遅いんじゃないかというタイミングで、今回出させていただいた次第です。その中で、まず保護者さんから説明会に入らせていただき、意見交換の中で様々な意見をいただいたんです。そこも、私たち預らせてもらっていますので、順番に地域の方も入らせていただくのですが、この方針がもっとより良いものにと議論は並行して進めていきますので、その点をご理解いただきたいと思います。貴重なご意見ありがとうございます。

2-1. 清水小学校で孫がお世話になっています。この孫が令和10年にはもう中学生になりますので、ちょうどかからないですけど、まだ未就学児の孫がおりまして、言えば自分事なんです。この夏までに、学文路小学校と清水小学校で統合に関する説明をこのように開いていただいて、私はもちろんその場にもいなかったんですけども、息子たちから聞きますと、学文路小学校は参加者がとても少なく6名とお聞きしているし、清水小学校の方は、学文路小に統合するなら、もちろんいいという意見はなかったようですが、橋小に引っ越してくれたらいいのにとか、そういう意見があったと聞いています。先ほど説明していただいたところを見ますと、委員会の方では、やはり学文路小学校に清水小学校は行ってというお考えと聞いたんですけども、学文路小の方がいいだろうと判断したのは、やっぱり学文路小学校ならもう大規模改修が終わっているから、十分この後、長きにわた

って使うことも可能やということなんでしょうか。学文路小の方がいいだろうと判断した、その理由をお聞かせください。

(教育委員会)

2期方針の考え方ですが、施設のことにつきましては、学文路小にという形で方針を出させていただいたのは、今おっしゃっていただいたように、大規模改修をさせてもらっているということで、建物がしっかりしているというのが一番の理由です。

2-2. それでしたら、なんかちょっと勝手な妄想ですけども、学文路小学校を7年前ですか8年前ですか、2年間ほどかけて大規模改修をされたんですけど、その時にもうこの統合に向けてという含みがあったわけではないんですか。

(教育委員会)

それは、当時ではございません。ちょっと補足させていただきますと、この学校の施設の方針を最初の日に清水小学校の保護者説明会に出させていただいたときに、様々なご意見をいただいたんです。ありきで話を進めてないかとか、これ決定違いますかとかといろいろあったのですが、いろんな意見をいただけてきましたので、その点は教育委員会の方でいろいろ議論する必要があると考えてます。

2-3. 今日の文書では、どちらの学校と明記されていなかったのですが、どうもこう地域に伝わっている話として、回覧版で回っていた、その区長さんたちの話でも、もう学文路小に決定やなど、そう思われているので、ひょっとしたらこの場においでの方も清水小の校区の方がほとんどなのかなと思いつつ来させていただいたんです。先ほども、お話しがありましたし、一方で清水小学校の保護者の中では、向副の方は、それなら橋小にできないのかなという話があったように聞いています。その時に、教育委員会のお答えとしては、学校区の変更は無理ですというようなお話だったと伝え聞いとるんですけども、学校区はどうなんですか。

(教育委員会)

これから、この学校再編と並行して考えていくこととなります。

2-4. それでしたら、うちはまだ、どちらにも同じぐらいの距離かなというところですけども、遠い方もいるから、学校区の再編をするときに、名古屋のようにどちらに、応其小に行ってもいい高野口小に行ってもいいという、そういう場所を作るというのはあるんですか、ないんですか。

(教育委員会)

現在、それをあるか、ないかは申し上げにくいのですが、やはりその保護者さんの生の声を聞かさせていただきますと、そのようなご意見をいただいています。やはり川の向こうに、向かうべき中学校が見えているのに逆方向に行くということであったり、我々が示してい

る1学年2学級というのに、現実、乖離があるんじゃないかという意見をいただいた中で、私たちが望ましい学習環境として方針を出させていただいたとしても、保護者さんにそれをじゃあわかったよって思ってもらえなかったら、気持ちよく子供さんを学校に通わせてもらうということも正直難しいかなど。いろんな意見が出てきましたので、そういったところはたくさん意見をいただきましたので、一定の方針を出させていただいたんですけれど、内部で考えていく必要があると考えています。

2-5. その選択ができるとなった場合、孫2人の意見が、私はこっちに行きたい、私は友達があっただからと、そうなった場合、親としてはどちらを我慢させるかとかそういう、個人的なそんな悩みもあるんですけれども、学文路小学校にとなった場合に、多分通学路とか保護者の方々からも出ていると思いますが、去年の暮でしたか、学校の防災はしもとメールとかあったりして、ずっと私は孫が10分もかからない距離に通学しているのにやっぱり心配で、1人で帰ってくる日は学校の近くまで行くとかしたんです。それを解消していただくようなのがあればお願いします。

(教育委員会)

貴重なご意見を承り、検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

3-1. 学文路小と清水小の統合ありきという中で、一般的には学文路小に統合するというそういう意見が出回っている。それ以外に清水小と橋本小をくっつけるという案はなかったのですか。

(教育委員会)

正直言いますと、議論はありました。それは、説明の中でもあったんですが、学文路小学校と清水小学校と橋本小学校のそういう考えを議論いたしました。今の方針でいいますと、お互いの地域コミュニティが清水と学文路にありますので、先にこちらの方を再編させてもらって、2段階でというふうに考えていたんですが、将来的には中学校区で考えます。けれども小学校で子供さんが通われている間に2回もそういう再編に当たったら、子供に与える影響はすごく大きい。1回でもすごいのに、友達の環境が変わったり、施設やすべての環境が変わるといふがあるので、そういった負担も考えるところです。

3-2. 清水小の子供たちは、橋本小に行けば6年過ぎたら中学校へ行くわけですよ。そういう将来だから、見通しはないんですか。

(教育委員会)

確かにそういう考え方もあるんですけど、清水小学校のお子さんが橋本小学校に行くと、学文路小学校のお子さんだけが残ってしまうという考えにどうしてもなってしまいます。

3-3. それもありかもわからないし、テレビでよく、最後の児童が卒業して閉校しますと

いうニュースを見たことあるんですけど、そこまですることはできないんですか。最後の最後までその学校を残して頑張ってもらおうという方向にはならないんですか。

(教育委員会)

別のところで、信太小学校がそういった形でやったんですけど、学校再編となりますと、どうしても統合が絡んでくるので、寂しさとかそういうものもあります。ただ、私たちは子供たちの学習環境を今も当然いいんですが、さらに少しでも良くしたいというのがあり、子供の数がかなりこれからも減っていくということ。将来的に受験というものを控えた中で、切磋する競争心も必要じゃないかということもあって、この方針を出させていただいているのですけれど、最後に残すということは地域性があるので、ないことはないんですけど。

3-4. 学文路小に統合するけれども、将来、清水小の校区の方が増える逆転するという話を聞いているんですけど、もうそうだったら、もう3校まとめて橋小にしたら、埋め込むという言い方はおかしいけれど、そんな案も地域の人は思っているかもしれない。

(教育委員会)

今日のこの地域説明会でいただいて、案は持って帰らせてください。

3-5. そしたら、学文路小と清水小をくっつけるという方法しかないわけ。

(教育委員会)

いえ、おそらく私たちがやってはいけないのは、再編統合ありきの説明会をやったらいけないんです。それは計画が決まったことを進めるんじゃなく、計画に至るまでの教育委員会として何を考えているかと、子供たちに対して、これから子供たちの人数が少なくなっていく中で考えていくのかは、この今回の方針ですので、計画に至るまでに皆さんからいただいたご意見を踏まえ計画に反映していきたいという思いです。決してありきという形ではございません。

4-1. 子供も通ってないし、みんな成人したんですけど、みんな清水小学校卒業して、統廃合で、私たちが行っていた幼稚園もなくなりますという悲しいことに巻き込まれ、橋本中央中になりますから学文路中閉校しますという時も引っかけり、橋本中央中になったのですけれど、その時も説明は適正規模・適正規模と、行政の方から言われるんですけど、大きくなったらこんないい事もあるよ、だけどこの点で劣っている。成績がすごい全国平均以下なんや、だから底上げで改善したいから合併さしてほしいとか、少人数やからあかんのやばっかりなんですよ。話を受け入れるしかないんですよ。高校生のときも再編で県のほうに、また高校の再編も噂になっていますし。その子たちが地域住民として清水小から学文路小へ行くことになると、やっぱり清水の過疎化も進むし、みんなの張り合いもなくなると思うんです。あの50人、60人そちらからしたら少ない人数かもしれませんが、彼らの力はすごいんです。彼らがいるからこそ頑張ろう、茶畑の葉刈らしたるのでおいでよ。

みかん取りにおいでよ。畑耕したろか、どうしよか、地域みんな共同で幼稚園のときからずっと見て来て、いろいろしてきているんです。学文路小学校と合併したら、地域の人は朝早いから見てもらえますよといっても、多分なくなると思うんです。バスで行くから大丈夫、でもその子が乗り遅れたら、その子を誰が面倒を見るんですか。多分清水小の子ら足早いから走ったら間に合うわと言って、道路を思い切り走ると思います。そうなったら男の子やったら、もうわき目も降らず走るからトラックにはねられたりとかしませんか。取り残しありませんか。こんだけ幼稚園とかでみんなバス見回したけど、取り残して車庫へ入っていました。熱中症で亡くなりました。何度聞いていますか。その中で、この50人の学校を残すという方向性は、意見は一度も出てないんですか、残したらこうですよ、でも残さなかったらこうならないですよの案ばかり、残した場合、そのために予算を取れないんですか。

(教育委員会)

ありがとうございます。決して、小規模だから、複式だから、単学級だから、複数あるクラスの学校に比べて例えば成績がどうかはございません。学校の先生の、授業の工夫であったり、繋がりがあってのことなんですけど、そういった裏付けられるものはないです。ですので、決して否定するものではありません。その中で例えば、バスのことであったりしたときは、これからまた交渉していく形にはなるんですけど、乗り遅れたら、それは正直あると思うんです。

4-2. 間に合わない時も体調面でも正直あると思うんです。すごい大雨とか、短時間集中豪雨、去年みたいなことになったら、川も道もわからないぐらいになります。そんな時、まだ歩いて行けるところ、清水小だったら、親御さんもなんとかあそこやったらと思うんです。清水の人からしたら学文路小は遠いし、何かあっても迎えに行くのは大変です、防災の観点からも小学校残してもらったら、これから南海トラフの時でも、子供たちも助けられるし、お年寄りもみんな清水の校区を守るためにがんばって行けるので小学校を残してほしいです。

(教育委員会)

今日は2期方針の説明ということで意見交換させてもらうために来させてもらいました。ご意見もいただきましたので、再編統合の話は避けられないんですけど、できればそういったバスとか見守りというのは、大人の地元の方のご協力というのも、やはり今後ともお願いしたいというのがあります。小規模校の良さというのがありますので、そういったところを再編で検証していくというのが私たちの業務になってきますので、ご意見をいただいて、持って帰らせていただきます。ありがとうございます。

5. 学文路小学校は水没するというのはご存じですよ、水害で、あそこが、一番水が溜まって、7年ほど前の水害、そういうところに清水小からそっちへ連れて行く、これもむちゃ

な話かなとは思いますが、そこら辺はどう考えたらいい。

(教育委員会)

確かに過去に学文路小学校のプール2回浸かっています。大谷川が紀の川のウオーターバックというのがあって、河川もそのまま整備されていないというのは、そこは正直気になります。避けられないですけど、気象状況等でそういったときには当然ですが、学校は身の安全が大事ですので、その時は臨時休校という策をとります。当然、予報みたいなことになるんですけど、そういった危ない環境において学校を開くというのはありません。

6. 朝だけじゃないですよ、日中だとか、去年は午後1時半に3時間ほど、すごく集中豪雨がありましたから、学文路小学校通っている人は、ここはどないしようと思っはると思うんです。この辺もため池があるから溢れたらどないしようとか、みんな考えていることなんですけど、それは地域でどないかしようかと考えていることで、なるべくならこの河南地区については、特別はあかんけど、もし橋本小学校になったとしたら、橋渡らなあかんし、前みたいに恋野橋が落ちないとか、川の増水で橋渡られへんとか、やっぱり迎えに来てくださいとメールが昔流れてきたこともあって、親はすぐに車出せなかつたりしたら、向こうに親戚もなく、そのまま学校に残すことになったりするかもしれない。地域住民からしたら残す方向でなるべくなら、もうすごいお金がかかるかもしれへん。清水小学校まだトイレ改修工事もしてないし、お金もかかるし、まだ50人レベルの話だったら、なるべくなら残す方向でもう一回議論して欲しいかなと思うんです。無理難題だってわかるんですよ。それこそ、高校だって笠田と紀北工業を農芸と一緒にしようとか、わけのわからんことを県の人と言って、なかなか押し問答の中、だれが何を言うても意見とおらない。いずれかそうなるとは思いますが、いま考える余地があるならと思います。

(教育委員会)

本当に、いいご意見いただきましたので、決して私たちこの2期方針を押しとおすつもりはありません。ありがとうございます。

7. ここでちょっと確認したいんですけど、学文路小に統合するという話はまだ出てないよね。

(教育委員会)

方針として教育委員会が持っています。方針として持っていますけど、決定ありきではございません。

8-1. それはいつごろ決定に変わる予定。

(教育委員会)

先ほどの中で、この新しい学校づくり推進計画が策定された時になります。最短目標値として、現在は方針を持っているんですけども。

8-2. 要するに幼稚園の廃園のときも何か言っていましたよね、5ヵ年で、あそこ潰してこども園つくると。せっかく、学文路さつきこども園できて子供らもみんな寄って、なんとか和解したわけではないですけど、なんとかこども園できて、子供たちが賑やかにおってくれたらとええわと思っていたところもあるので、そこもちょっと考えてくれたらと思います。

(教育委員会)

ありがとうございます。

9-1. 冒頭の説明のときに、一部の保護者の方という話だったかどうかわかりませんが、清水小学校、学文路小学校それから橋本小学校をいっぺんに統廃合というのだったらそういうふうにしてくださいという意見もあったと聞いているんです。そしたらそのときに、いっぺんに橋本小学校というのは、受け入れの形態がしんどいというお話もされてしましたよね。

(教育委員会)

すいません、誤解を招いているので、もう一度説明させていただきます。一段階での統合というのは、西部小も含めた、橋本小、学文路小、清水小の4校の統合の場合を言ってるつもりでした。

9-2. わかりました。そしたら、西部小を含めて4校一緒になったら、橋本小学校はしんどい、若干無理がある、そういう方向ですよ、キャパ的のところですよ。

そしたら、向副の鉄橋付近の子供さんが学文路小学校まで行くというのは、ちょっとさすがに実際問題無理があると思います。だから、そんなことも含めて、例えば清水の未就学を含めたお家の方が、それやったら橋本小へ行かしてくれよという気持ちは、これはもうごく当たり前だと思います。今後、多かれ少なかれと言うか、遅かれ早かれ、この学文路地区内で1つになったところで、それも永久的に存続できることはもうまず有り得へんと思いますわ。もうごく近い将来、橋本小学校に統廃合せざるを得んという状況になるわけですよおそらく。それやったら今から目標を立てて、と言いますのは、1年生の入学した児童、6年生の方も、そしたら何年生ときに自分らは統廃合になるとかっていう話も当然ながらありますので、今から6年後に橋本小学校に行くんですというふうな感じを、時間的な余裕を設けていただいたとしたら、受け入れ体制を調整する時間はあると思うんですけど、この辺はどんなものでしょう。

(教育委員会)

確かに橋本小学校の今の状態という形になりますと、ちょっとキャパシティといいましょうか、体制の方がちょっとまだ整っていない状況になります。もし3校という形になりましたら、その辺の整備をした上での話になってきますので、またその分お時間はいただいく形になってくるようなことは考えられると思います。いろんなご意見いただいている

中で、そういったことを考えながら、進めていきたいと思っているところです。

9-3. もう私ども児童はおりませんが、親の立場として考えた場合に、例えば3年後4年後、統廃合になり、あっちに行かんなんとなった場合に、やっぱりそれはもう、担任の先生のことであつたりとか、それはもちろん心配事はあると思います。だから、6年間というふうにすれば、1年生の方が卒業したというタイミングになりますので、そこ以前の子やったら、新たに入るところは、その橋本小学校でいいかなと思うんです。その間やったら6年間あるわけやから、受入体制は十分調整できるん違うかな。これは感覚的に、教育長どう思われますか、今の話について。

(教育長)

今、ご提案いただいたような形で学校再編をしている地域もございます。その時に考えていけないのは、そしたら、6年後ということであれば、7年目までに入学する子たちは初めから新しいところに行くのか、それともその子たちも新しいところに行く学校の、前の学校に引き続いていくのかっていうところがちょっと悩ましいところがあるんです。

どこかで区切りをしたときに、この後、下の学年が入ってこないというような学校運営をしないといけない状況も可能性としてはできます。そうなってしまうと、最後の6年生は低学年がおらずに、自分たちの学年だけで卒業するということになっていくので、そこをどう考えるかも課題になってくると思っています。学校運営を考えたときに、1つの学年だけが最後に下が入ってこないまま行くということは、なかなか学校運営もしにくさがありますので、どこかの段階で新しいところへ先に行ってもいいよという条件はつける必要があると思うんですけれども、6年後に切ってしまうというあたりについては、今言ったようなこともあるので、その辺りは議論していく必要があるということも、お含みいただけたらと思っています。

私自身は、学校運営を考えたときには、最後に卒業するのは6年生だけという選択を、信太の場合はそういう選択を自分たちで話し合いをする中でしていたわけなんです。学校運営を考えたときには一定の数があって、それぞれの学年でいろんな交流ができるような形での学校運営というのが望ましいというところもありますので、どこかの段階では切らなければいけないのですけれども、そこをどうしていくかというのは、話しをする中で、一定のコンセンサスを得られるところで、決めていく必要があるのかなと考えています。

9-4. いずれにせよ、清水小、学文路小の統廃合する場所が、ちょうど中間ぐらいだったとしたらここまでの問題になってない、感覚的に仕方ないと皆さんほとんどわかっていると思うのです。だからその辺のところ、今後はエリア的な目で見えていくという人ももちろん、これからの時代は、児童数の減少ということであると思いますので、僕自身としてみたらこの橋本小学校にというのはもう仕方がないだろうと。清水小、学文路小で統廃合したり、ちょうど中間の場所に新しく新設してくれるのであれば問題ないんですけど、そ

んなことあり得ることなく、それやったら、先ほどから言っているように、あらかじめそこに決めてという、ソフトランディングを目指していくしかないのはもちろんわかるんですけども、ちょっと、その清水小の子が学文路小というのはちょっと非現実的というのが実感です。

10. この話を最初に聞いたときに、学文路小と清水小が一緒になっても適正規模にはならないのに何でというのがまず思いました。先ほどからの話ですけども、25ページのゆくゆくは西部小と橋本小へ行くと、それで、今、先ほどお話は一緒になったら、キャパがうんぬんとその話を聞いたときに、ちょっとこれ学文路、清水地区の子供たちを、失礼ですけども非常に教育委員会に軽く見られているのかなというのを感じたわけです。しばらくは河南のためにひっつけといて、またあっちのキャパができれば、そっちへ掘り込むと、その数合わせとは思っていないとは思いますが、そういうふうに感じました。ちょっとそういうことに対して、学文路小、清水小の子供、或いはこの地域をどう思っているのというふうに思いました。

2点目です、この地域の学校のところで実情に応じてということで小規模校が決して悪いとは思っていない。そういうふうに言っていて、そのとおりだと思っているんです。それで、長所短所書いてくれていますよね。今、清水小学校も学文路小学校も非常に地域と結びついて、その良さを十分に教育長からも知っていて、そこに力入れていただいているのもよくわかっているんですけども、その良さをどんどん発揮しているんです。例えば、清水小学校へは、地域の方が年間延べ200人以上の人が、学校へボランティアという形で来てくれて、密接に関わって、先ほども地域の先生という話、これは伝統としてやってきているんです。それで地域と密着ということ言えば、この間、別のところで言わせていただきましたけど、ヘラブナ釣りであったり、はたごんぼであったり、柿の栽培であったり、それから黒河道、そういったことを学校の教材に取り入れて、その小規模校、地域との密着が非常に実践的にされています。それで、多様性ということと言っても、休憩時間に運動場を見ていただいたら、清水小学校の子供は、1年生から6年生まで交わって遊んでいます。大規模校であれば、なかなかそういうことができずに、わざわざ時間とって縦割り学習なんていうことをやっているんですけども、清水小や学文路小もそうやと思いますけど、日常的にそういうことができる、そういう良さもあります。それも、多様な1つ、小規模校でなければできない、多様な関係を作っているというふうに思っているんです。

それから、先ほどからこの5ページのところで、保護者世代と現在の授業形態なんですけども、ここんところで、答えをみんなで作っていく、それから正解のない答えをみんなで作っていく、これ非常に大事なことだと思うんです。それはしかし、小学校の段階ですぐにこれができるのですか、これは教育として非常にレベルの高いことやと思うんですよ。それを目指すということは大事なことです。しかし、小学校の段階でこれを目指すということ言うたら、非常に大変じゃないかな。小学校の間、ここにおられる方、放課後学習とい

うことで3年生相手に勉強を教えたりしているときに、そういうふうな形態は、小学校3年生では他の授業のいろんなところでは、そういうのはできるかもわかりませんが、中学、高校、小学校高学年でそういうことできるかもわかりませんが、こういうふうな形態というのを求めて、それをやるというのにはちょっと無理がある。もしくはそういう小学校の段階でこういうのがあれば教えていただきたいと思います。

それから、統合してしまったらということと言うたら、やっぱり地域に学校がなくなることは、先ほどから何人かの方も言われていましたけども、やっぱり大変なことです。衰退するとか、だから、地域の皆さん住民として、やっぱり何とかして残してもらいたいんだということを伝えていくべきじゃないかなと私は思っています。以上です。

(教育長)

今、清水小学校、学文路小学校で実践していることについて、すごく関わってくださっている方なので、内情もわかっていただき評価いただいたこともうれしく思います。それは、特に橋本市の教育として、今大事にしている地域とともにある学校、地域の人たちの力を借りながら、子供たちが自分でいろんな課題を見つけて、それに取組んで、そしてみんなの力を合わしながら解決していこうというような取組をしている中で、評価いただいていることを本当に嬉しいことですし、私の思いもかなり持ちながら取り組んでいることなので、そういった形で成果として、地域の皆さん方も見ていただいていることは、すごくうれしく思います。だからこそ、この学文路小と清水小、そして人数を考えれば橋本小、西部小のことも一緒にしていくことが望ましいということは思っているんですけども、やっぱりこの地域性ということを考えて、こちらの方でやっていただいているような地域の教育、地域に根差した教育というのを進めていくためには、この2校の統合、2校がまず一緒になるということが意味あることかなということを考えていました。決して軽んじているのではなくて、今やっていただいていることを継続してできる環境を整えることができるのかなと、そんな思いを持っていました。ですので、全く反対のことを私自身は考えています。

そして、最後のところで言っていたいただいた思いというのは、私自身もわかります。私も、元々は田舎の育ちで、一旦学校がなくなって、今、移住してきてくれた人がいるから復活したような田舎で育ってきています。地域が学校に求める思いというのはわかります。けれども今、子供たちにとって、いろんな課題、問題が起こっているところを見ていくと、やはり子供同士の、かかわり合いの薄さがもともなって起こっている事柄というのは、かなり多く発生していると考えています。子供たちが、本当は子供たちの世界で起こったことは、子供たちの世界で解決していかないといけない。なのに、その部分に大人がかかわってきていて、余計いろんなことでややこしくなっている。それは子供に本当に力をつけていることになるとかというような思いを持たざるを得ないような事例も出てきています。だからこそ、子供たちが、子供たちの中で起こっていることを自分たちで解決していける、そんな環境を整えることもすごく大事だと思います。

一方で、提案いただいたような、少人数であってでも、すばらしい教育をしている。これ、

両方とも大事なことなんです。どっちかが駄目だということでも絶対ないんです。けれども私たちは、提案させてもらったような方に少し重点を置いて、教育を考えていきたいと今回の提案はさせていただいていると捉えていただけたらと思っています。清水小にしても学文路小にしても、特に複式のある学校です。でもその中では、本当に先生たちが研究をしながら、複式教育のあり方を取り組んでいただいて、私もそうですし、教育委員の方々にもその様子も見ていただき、本当にしっかり取り組んでもらっていることを感じています。ですから、それを否定するのではなく、どちらをとというふうに考えたときに、やっぱり今の良さも残しつつ、一緒になってできる教育の幅が広がるというか、そういったところに発展させていきたいと思っています。

今までの教育のあり方プラス、これからの教育のあり方を説明しました。これからの教育のあり方はなかなか難しいですというご指摘いただいたんですけども、これはなかなか難しいですが、今橋本市の学校はそういったことにチャレンジしてくれています。特に複式教育でやっているようなやり方というのは、まさにこれができる学習形態なんです。だから、今やっていることを新しいところで生かしていけるというような可能性も私自身は感じています。ご意見ありがとうございました。

1 1 - 1. 今現在、学文路小と清水小で勤務されている先生方のご意見は聞かれていますか。

(教育委員会)

校長先生からのご意見は直接いただいております。各担任の先生のご意見等までは、我々直接は把握できていない状況でございます。

1 1 - 2. 学校双方からは、その学校の運営なりの改善しか上がってこないというのがありますよね。だから先生個人の意見は、こんなことを思っているというのは吸い上げてはないんですか。

(教育委員会)

この方針を学校の校長先生にお知らせし、校長先生は職員会議等で各先生方に話してもらっていて、それを吸い上げてもらっているという形で認識しているのですが、決して校長先生個人の主観だけで預かっているというところはなく、直接お話できていないというところでご理解いただきたいと思います。

1 2. 教育長から話してもらったのと、個人的には全く逆で、小学生の子供たちはゆっくりでいいから、切磋琢磨、人数が多かったら、いろんな干渉がぶつかり合い、新しい問題が見つかって、そういうチャンスが増えるような感じに聞こえたんですけど、確かに増えますけど、数少なくとも少しずついろんなところでぶつかったり、摩擦が起こったりして、解決していかなあかんこともあると思うので、どんどんこっちは大きくなって、中学やその次

へということになってくると、どんどん自分で解決できることも力も付いてくるわけで、そういうチャンスが増えるのでいいですけど、小学生、まだまだこうなっている力の差がある、もう話しがすぐわかる子もおれば、なかなか、そこに止まって立ち止まる、だからそういう、いろんな子がいるわけやからゆっくり、ゆっくりしようと思ったら、その統合して、ある程度の規模にというよりは、少人数のところ、なおかつ、地域のいろんな大人も関わってというのがいいのかな、どっちかという、そっちの方が理想的なのかな、小さいときはね。大きくなってそんないつまでもというわけにはいかないと思うんですけど。そういう機会も小学生の子供たちのときには、そういうゆっくりした機会もあっていいのかなと思います。

(教育長)

ご意見ありがとうございます。私自身は、せかせか急いでという、そういう意味で思っているわけではありません。やっぱり子供たちの発達、成長段階というのは、一足飛びには絶対にいきません。これは一人一人の子供が持つ個性を順番にたどりながら成長していくというのは、これは誰しもがたどるものであります。だからこそ、いろんな一律の集団ではなく違った子供がいる中で、その立場を理解しつつ丁寧な関わりをそんなときはしながら、教育というのは、進めていかなければならないというのは、そのとおりだと思います。集団が大きくても小さくても、そここのところの丁寧さというのは必ず必要になってくると思います。

教師集団を考えたときに、私もずっと小学校で勤めていましたので、自分自身の経営スタイルで大事にしてきたところは何かという、低学年はやっぱり手厚くしっかり関わっていける体制を職員の中に作る。そして、その中で高学年に向けて準備を進めていけるようにやってきました。だからその辺りでは、同じような思いを持っています。けれども、一定の集団がいるということも私自身は思っています。複数学級があるということは、単学級にはない良さというのは、集団を構成するとき、単学級だったら固定してしまうところが、いろんな形で組み合わせを考えることができる。これも大事なことだし、教員の数が増えるところも資質向上、そして子供たちへの教育の充実にも繋がっていくものです。どうしてもやはり学級数が少ない規模の学校であれば職員の数も少ないです。その中で、持たなければならぬ仕事の量も、1人にかかる負担というのも大きくなってきます。そういったことは、いただいたご意見と違うところになるんですけども、それが結局は子供を丁寧に見ていくことに繋がっていく。そういったことをトータルして、今回、小規模の良さを私たちは認識しつつも、一定の規模をキープした学校づくりを提案させていただいた。そんなふうにとらえていただければありがたいなと思います。ご意見ありがとうございます。

13. いろいろ意見が出たんですけど、意見をちょっとまとめてほしいんです。長くしゃべった人もいるし、いろんな意見あったでしょう。そちらの方に議事録で書く内容をちょっと教えてほしいです。

(教育委員会)

議事録として出させていただく内容は、基本ほぼこのままという形になります。要点ではなくて、このやりとりをそのまま書いたものを出していく形になります。

14. まだちょっと時間あるので、一番最後にしようと思ったのですが、清水の老人会で高齢者の皆さんに確認いたしました。当然高齢者ですから、清水小学校に愛着があります。昔のこともよくわかっていますけども、高齢者の皆さんのご意見はすべてですけども、橋本小学校に合流して欲しいという意見でした。その理由うんぬんじゃなしに、学文路小よりも橋本小がいいということでしたんで、それだけは高齢者の意見として、留めおいていただきたいと思います。

私はちょっと違う観点で、今回の適正規模・適正配置ということとはちょっとずれてくると思うんですけど、もっと基本的なことで、橋本市の運営という形で考えてみたときに、私は企業におりましたので、企業の発想しかありませんけども、要するに人口の流れというものは、今までの過去現在の流れで人数を算出されていると思いますけど、企業はそういうことはやりません。必ず途中で修正をするという形になりますけども、橋本市の限界人口というのがあると思います。4万7,000人とか4万なんぼとか言われていますけども、4万人に橋本市がなったときにどうなると思いますかということですね。要するに、市として運営できるのかということまで行く可能性ありますよね。ですから、限界人口はどのぐらい、市として運営できる限界人口はどのぐらいということが一番私は大事じゃないかなと。今6万割りまして、5万なんぼになっている。10年計画の中で半分が経って、すでに6万割っているということですね。それと、要するに教育ですけども、教育と産業というのがあります。市としては産業を優先するのか、教育を優先するのかということになってきますと、相続税の改正がありまして、家督相続制度はなくなりまして、相続税といいますが、長男が家を繋がないでもいいということがありまして、私らのときは必ず長男が家を継いだということで、家から通勤していました。最大2時間のところでも通勤しましたが、今はそうじゃないんですよね。ほとんど家族がなくなっていますよね。そうすると、今の教育制度といえますのは素晴らしいですよ。私は国民を作っていると思うんです。橋本市の人を作っていないと思うんです。ですから、橋本市の人を作る教育体制はどういうことかということをおちょっと疑問に思うようになりましたね。いろいろと全国の資料を見ますと、やはり同じような悩み、頭脳、要するに橋本市の頭脳、清水の頭脳ですけども、その人らが全部大学行かれて、今の小学校の教育カリキュラムを見ますと素晴らしいですよ。ですから流入人口が減るのが当たり前のことです。データは聞いていないんですけども、大学生の方の留まり率ですね、大学生の方の流動率がどれだけあるのか。実際数字を持っていないからわからないんですけど、その方たちが流出し、そこで就職されてしまう。及びそこで生活圏、生活をなさってしまう、そうすると必ず返ってこない。返ってこない教育というのはどうなんかなと思います。そうすると、解決方法は産業、人が留まる。今の教育で留まるようにしなくてははいけないと思うんです。ですから、新しい産業を構築

しないことには、到底出来ないんですけども、いろんなことを議論しても橋本市がなくなっていく可能性があると思いますね。

和歌山市が、いろいろと検討して、その留まり率が少し高くなったという数字も載っていましたが、じゃあ橋本市でどういう教育をしたら、その地元におってもらえるのか。現在の産業構造でしたら、留まってくれる産業ありませんので、そうすると何を作った方がいいのかということにあります。各大学でも新しい農産業、農業だけでなしの産業がありますね、農業工場というのがあります。そういう器を作らないと立派な人を作れば作るほどよそに行ってしまうように思います。

今回のその視点とは全然違いますけども、やっぱりこれからは、橋本市としては高度な産業を1から作り始めないと、幾ら立派な教育をしても、留まり率が悪くて民度の高いところへ全部流れてしまうように思います。ちょっと視点が違いまして申し訳ないですけども、現在はそのように思っております。以上です。

(教育委員会)

ありがとうございます。確かに今、若い人の流出が非常に問題になっています。説明の中でもありましたように2050年、今から26年後です。この右端のところですけども、人口4万人割り込むような推計がされています。15歳以下の人口も4,000人を切るような状況になっています。やはりご指摘いただきいただきましたように、若い人がいったん出て行ってしまふとなかなか戻ってこないというのが実情であります。人口を年齢別に見ますと、若い層、生産年齢人口という人口が、かなり一気に減っていくような形になっていたかと思えますので、なかなか産業を興していくという非常に難しい問題ではあるんですけども、取り組んでいかなければならない課題と思っています。

15. 今出ているグラフで、生産年齢の人口が減っていくっていうのは目に見えてわかるんですけど、それは仕方がないかなと思うんですけど、市として、それをちょっとでも認めて増やしていくというのではなく、生産年齢人口が減るから学校統合するみたいな方法で、学校統合を決めているかなと思うんですけど、そこを増やしていくような取組というのは、教育委員会の部門と他の部門で、いろんなパターンあると思うんですけど、その話し合いとかもしないのか。

(教育委員会)

おっしゃられるとおり教育と市長部局といたしましうか、経済推進部とか他の部局ともトータルでまちをどうしていくかというような話し合いなんですけども、具体的にそのシナリオプロモーションの中では、関わり合いをしながら、どんなことをしたら人が来てくれるか、人が残ってくれるかという話をしているところはあります。すぐさま成果が出るというなものではないところもあるんですけども、そういった取組を意識しながらやっているとあります。

16. 取り組むうえでの留意点 24 ページに書かれてある学校運営協議会、地域と学校の協働、これを工夫していくとおっしゃられた。今までも工夫している中で、そのようなことがもう含まれるのか。あと、きめ細かな学習指導と教職員の指導力の向上、今までやっていなかったんかという話になるが、それをちょっと説明してほしい。

(教育委員会)

1つ目の運営協議会ということなんですけれども、これはもう本当に地域の方々に支えていただいて、その時、その場で、その都度いろんな課題を出し合っていていただいて、その学校を良くしていく、子供たちの成長のためにどんなことが必要かというのを常々考えながら取り組んでいただいていることと思います。それは、今までも、どこの学校でもやられていることだと思っています。今後、もし学校が統合となった場合にも、それぞれの課題が出てくるということで、学校長を中心として、また話し合っていた中で、出てきた課題をそれぞれの学校で、皆さん知恵を出し合って工夫していただくということが続いていくというような認識でいます。それから、きめ細やかな学習指導と教職員の指導力の向上につきましては、おっしゃるとおり今までもずっと継続しているものです。ただ、この3年間で若い先生方、新任の先生方が80人あまり入ってきています。これは橋本市内全体です。今一番の学校教育における課題として、私たちは先生方の指導力の向上というのは、本当に大事な課題だと考えておりまして、それぞれの研修会を開いたり、それから、各学校の校長先生を中心に研修体系の体制を作って日々子供たちへの関わり方であったり、指導力の向上についての指導であったりというのをそれぞれの学校でやっていただいているという現状です。これにつきましては、今後も変わらずやっていくと考えています。

17-1. さっきの話、まとめをしてほしい。

(教育委員会)

まとめていたのですけれども、かなりたくさんのお意見を出されました。まず最初に通学の安全安心、学校の安全安心というご意見が出たかと思います。続きまして何人かの方が、学文路小と清水小との再編統合について、清水小の良さであるとか、清水小の小規模校としての良さがあるので残していただけたらという意見もあったかと思います。

17-2. 通学路の話の中で2キロ程度というのは柔軟に考えますと。乗りたい子供はすべてスクールバスOKとこう言われましたよな。

(教育委員会)

私の言い方がちょっとそのように聞き取れて申し訳ありません。例えば、ここまでは1,950メートルで、ここ2,000メートルだから行ける行けないとかというのではなく、同じ地域の中で、地域の端っこと手前で分かれることはなく、この地域が2キロであったら、この地域のお子様は乗っていただける、そういうご解釈をいただければありがたいと思います。

17-3. そこはやっぱり2キロ程度になるわけ。乗りたい人はではダメ？さっき乗りたい人はと行けると言ってたようなのもあったような。

(教育委員会)

条件下の中でということで、ただその2キロの捉え方をスパンと切るというのではなく、ほぼ同じ地域であればその真ん中とか、手前で2キロと考えていきたいなということです。

17-4. そうすると、やっぱり道に対して、ガードレールとかそういう施設を考えていただきたいよね、それを考えると、なぜ学文路小にするかということに繋がってきますよ。大谷川の洪水もありますし。

(教育委員会)

今日もそういう課題をいただきまして、バスという安全対策で一案出させていただいた次第です。

17-5. 分校として残せないか。橋本小と清水小と学文路小で考えられる。西部小を入れると、なんか知らんがキャパの問題という話ですね。それと清水小学校を残す。それと学区の検討ね。学文路小学校で決めたということはまだはっきりじゃないですね。以上ぐらいですか。他ありましたか。

(教育委員会)

清水の高齢者の方は橋本小の意見とか、新しい産業を興していかないと若い人は残らないよという意見もいただきました。

18-1. これ、大きなことです。今後、この話し合いは、これが最初で最後ではないのですか。また、こういった話し合いの場をいただけるんですか。

(教育委員会)

今回2期の方針の説明という形になっていますので、また必要に応じてこういったこと開催させていただければと思っています。

18-2. それはどういう状況下で開催してくれる。こちらから要望せなしてくれないのか。しますよ、みんな集まってくださいね、2回目の説明会しますよということがあるんですか。

(教育委員会)

今回も、やりますよ集まってくださいという形をとらせていただいたかと思うんですけど、そういった形になっていくと思います。

19-1. 今回の議事録というのは、小学校が合併される学文路小と清水小、橋本小の保護者にも、隅田地区でもされる説明会の議事録というのを、プリントアウトして、保護者の方

に出してまた意見を求めて、それを教育委員会で話し合っていて、またフィードバックしてもらえるのは、いつ頃なのかここではわからないんですか。

(教育委員会)

そうですね、議事録の形になったものをホームページに公開させてもらうという形になります。

19-2. ホームページを見ないとわからんということですよ。じゃなくて、対象の人のところには配布したらどうですか。そこにお金もかけられない。誰もが見に行くっていう人、あきらめモードの人は見に行かないけど、紙で見たらもっと現実味を帯びるからもっと真剣に考える人が出てくるかもしれない。ペーパーレスの時代にそんな、何をマイナスなことに思われると思うけど、やっぱ訴えかけて、その投げたボールを私らも返して欲しいし、高校の再編時も投げるけど返りはしない。もうこれほぼ決定ですから。何かしたかったら、高校でも何か特色あることしてください。そしたら移住者の人求めます。橋本に来てください。ゼロ空き家推進します。河南だったらいっぱい農地が余っているから、農地の斡旋をするから働きませんか、そういう働きかけとかしたら、人口も増えるかもしれないし、そういう働きかけも今まで何年も幼稚園の時も話があったにもかかわらず、何もせんと働きもせず説明会されて、答えはホームページで見てください。またその折に触れて説明会するかもしれないと、こちらモヤモヤしか残りません。

こういうふうになんかちょっと歩みを変えましたとか、そういうことをきっちり広報に出していただきたいです。公民館便りにひっつけてもいいし、公に出していただきたいです。

(教育委員会)

ちょっと今どういった方法ができるか、すぐお答えできないんですけど、何か考えさせていただきます。

20. 適正規模・適正配置検討委員会の委員だったものとして言わせていただきますが、協働の観点から言わせていただくと、あの場に集まった大勢の委員の皆さんは、大変協働に熱心というか、市がこういうふうにしたから協力して、会議を9回に渡って2時間、皆さん仕事帰りにまた子供を託児に預けて、参加してすごくいい議論ができたと思います。それで答申したと思うのですが、あれはすごく、何て言うんすかね、大きい話だったと思うんですが、大きい話をしてその後に、こういう格好を統合しますという細かい話が出たと思うんです。その委員会に出た委員の人たちは、きっとあれが出たときに、そうなの聞いてないよとか、すごくなにか自分たちが話し合ったことは生かされたんだろうか、みたいなことを思っている人がきついていると思うんです。大事な時間を使って皆さん出たので、だからやはり、もちろん私たちは協働の精神で、市に協力しようと思っていますし、市の皆さんも私たちにいろいろ聞いてくださるのはありがたいんですけど、もう少し丁寧にしないと、もうこういう委員会に参加するのは、ちょっと嫌だなんて思う人が出てくると

すごくもったいないので、丁寧にさせていただきたいと思ったのと、また、仮称ですけど橋本市の新しい学校づくり推進計画策定もされるときに、また委員の方を募集されたりすると思うんですけども、そのとき地域のこういった話し合いとかも入れて多くの人の意見を聞いて進めていただきたいと思います。ただ、こっちが何となく裏切られた感があると、なかなか協働ということに進んでいかないと思うんです。はぐくむ委員会も頑張っていますので、ぜひ協働していきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

(教育委員会)

ありがとうございます。ご意見いただきました、わかりました。

説明会に出席していただいた保護者の皆様から意見書に記入いただいた意見です。

21. 今回の各地区での説明会を終えて各地区の意見を聞き、教育委員会としての今後の方針をはっきり出していきたいです。学文路小と清水小が合併なら、橋本小と清水小にしてほしいです。

22. 清水小学校校区の住民の意見として、学文路小学校に行かず、橋本小学校に行きたいとありましたが、学文路小学校区の住民としては、そうなると学文路小学校だけが取り残されてしまうのではないかと心配しています。なので清水小学校区の人も学文路小学校区の人もどこの小学校に行くのか、選べるようにしてほしいです。

23. 児童が学ぶ小学校はまず残してほしい。適正より個々をより大切に考え、小規模でできるところは小規模で進めてほしいです。切磋琢磨は後にすればいいと、個人的には思います。友と一緒に学ぶことが楽しいと皆が感じられたら、各々が前へ進めると考えます。

24. ピンチがチャンスと考えて、後向きではなく前向きな考え方で対応して行ってください。そうすれば良い意見のもと、全て解決の方向や姿が見えて来てその都度明るい教育行政になっていくと思います。

25. スクールバスについて、現実的に運用できるのでしょうか。各地区で通学距離が2 kmほどの児童生徒は多数いると思います。橋本市内で同時刻の運用となれば、台数、運転士の人数、きちんと確保できるのでしょうか。地域に根ざした学校がなくなれば、地域の崩壊につながると私も思います。ぜひ小学校は地域に存続させていただきたいと思います。

26. 一刻も早く、人数が1人でも多いクラスでの学びがあるようにしてほしいです。令和10年度を目覚している考えだが、7年、8年、9年に入学する児童が、予測している入学児童程いるのか？同級生の人数が1人？、2人？で予測の10名程度いないのは、学びあえず大事な低学年の時期が経験できないことが多くなるのでは？学文路小、清水小どちらかに入学しても常に合同で勉強できる仕組みにできないものか。5人以下のクラスメイトは、固定化されて... 選べずつらい。実際入学予定の令和7年、8年、9年あたりの保護者をピックアップして、集めて意見を聞いたり出したりできる場があってもいいのでは？地域の大事さはとても分かるが、清水の思いも分かるが、声をあげているのかもしれないが学文路が取り残され... というふうを感じる。橋本市が大きな年月の流れで考えるなら、市として川の南に何も無い... となって行くのは... とも感じるので、学文路、清水、恋野、九度山がスクールバスで通えるように、新たに真ん中あたりに学校をつくることも考えとしてどうでしょうか。真つすぐな道を行き来させるバス、もしくは電車も考えられるのでは？

安全性などを考えると... 考えやすいのでは？実際フタを開けたら、住所を変更して他の学校に通うという選択をする家庭も出てくるのでは？入学者0人、もしくは1人となった場合どうなるのか。今までの出ている意見が（小学校での説明会分、学文路と清水のだけでも）、どんな内容でどんなお答えをしているのか見たうえで、今日があれば良かったのではと感じました。学区があるが外してしまい、選べるようになるといいなと思います。集団に行きたい人がいれば、小人数がいい人もいるし...。就学前の施設は選べるようになって来たのに、とも思います。難しいでしょうか。